

クロスボーダー 道路網整備事業 (カルナ橋)



鉄建建設、アブドゥル・モネム・リミテッド社、横河ブリッジ 共同企業体 カルナ作業所 所長

竹内一雄

Kazuo Takeuchi



カルナ橋完成予想図



11月試験杭施工状況



場所打ち杭の載荷試験

バングラデシュ人民共和国の紹介

南アジアの中心に位置するバングラデシュの経済は、経済成長率が7%を超え、アジアでもトップクラスの成長を続けている。一・六億の人口を有し、豊富で低廉な労働力により、投資先・成長市場として、近年は、NEXT11としても注目されている。しかしながら、いまだに二四％(二〇一七年)の貧困層を抱え、またインフラの未整備により、たびたびサイクロンや洪水といった自然災害に見舞われるなど、気候変動による影響を受けやすい国である。そのため、より一層の経済発展のために、基幹産業である繊維業・農業の振興に加え、国内外の投資による運輸・電力などのインフラ整備の強化に積極的に取り組んでいる。

プロジェクトの紹介

バングラデシュのクロスボーダー道路網整備事業(ODA有償資金援助「アムタイド」)は、周辺の南アジア地域の国々(インド、ミャンマー、ネパール、ブータン)をつなぎ、地域全体の経済発展に資するものとして期待されている。道路輸送は、同地域の貨物量・旅客数の七割を占める主要な輸送手段となっているが、道路や橋梁は老朽化が進み、一部では道路整備が

工事概要

当社が担当する工事は、クルナ管区バディアパラのモドゥモテイ川にカルナ橋を建設し、アジア・ハイウェイ一号线を通すものである。カルナ橋の施工箇所は、首都ダッカとインドの都市コルカタのほぼ中間に位置している。ダッカから陸路で現地へ向かうには、急ピッチで整備が進むアジア・ハイウェイ一号线を南西へ向かい、途中、パドマ川を渡り、車で五時間の道のりである。モドゥモテイ川は、現在、パドマ川に次ぐ交通の難所になっており、人や車両、生活物資を積んだ台船が、一隻で兩岸をひっきりなし



ベースキャンプ



に往復している。橋梁の構造形式はニールセン・ローゼ橋とPCI桁橋で延長は六九〇メートルにアップローチ道路四・二キロメートル(盛土工約一〇〇万立方メートル、高速道路部分の車線は三・六五メートル×四線+三・六メートル×二線)、料金所及び道路照明電気設備を整備するもので、二〇一八年九月に着工した。当社とアブドゥル・モネム(現地企業)、(株)横河ブリッジで共同企業体を構成している。モンスーン気候の影響を受ける本工事では、雨期・乾期の工程管理に注力が必要となる。

【工事内容】

発注者：バングラデシュ人民共和国 道路交

終わりに

二〇一六年七月一日に、ダッカ市内において日本人七名を含む多数の犠牲者を出した襲撃テロ事件(ダッカ襲撃テロ事件)が発生した。バングラデシュのテロ対策は今も継続中であり、本工事においても厳重なセキュリティ対策を実施し、二〇二一年夏の完成に向け、工程・品質・安全管理について、関係者全員が総力を挙げて取り組んでいる。

バングラデシュのクロスボーダー道路網整備事業の多くは、中国系企業または現地企業が請け負っているなか、日本企業または代表という自負で、質の高い工事に努めていきたい。また、当社はダッカ都市高速鉄道六号線(CP5)の施工も担当しているが、これら交通インフラの整備を通して、バングラデシュの発展の一翼を担いたいと考えている。